

平成16年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

石井（健）研究室	氏 名	大橋隼人
卒業研究題目	テキスト対話における知識パラメータとその効果	
<p>近年、コンピュータとの対話を行うシステムが数多く提案・開発されている。その中で実用化に至ったものの多くは特定のタスクを達成することを目的としている。このような対話は、例えば雑談のような、日常的な人間同士の対話とは異なる特徴を有する。そこで、本実験では非タスク達成型による日常的な人間同士の対話の実現を目指す。</p> <p>本研究では、知識パラメータが自然な対話に与える影響を調査し、最適な知識パラメータを明らかにする。そのために、対話プログラム「KELDIC」(Ken's Laboratory Dialogue Computer)を用い、書籍に関する雑談を行うプログラムを作成した。このとき、知識パラメータとして「KELDIC」が利用可能な書籍のデータ数を用いた。書籍のデータは約五万冊分を用意した。このうちの利用可能な書籍のデータ数を、100%、75%、50%、25%、0%と変化させ、対話を行った。</p> <p>知識パラメータの効果は対話の自然さによって評価した。まず、被験者に対話がどの程度自然であったかを5段階で評価させた。次に、「不自然な対話は対話を続けることが困難である」との仮定から、対話中の破綻回数によって対話を評価をした。</p> <p>その結果、知識量が増えるにつれ、被験者による自然さの評価は減少した。これは書籍データが多いため、被験者が知らない書籍の話題が増加したためである。このように、知識を適切に利用しなければ、知識量は必ずしも自然な対話とは結びつかない。したがって、被験者が知っている書籍の話題など、知識の適切な利用方法を明らかにすることが今後の課題である。</p>		